

## 夏秋栽培における遮光資材が パプリカの着果率や収量に及ぼす影響

パプリカの夏秋栽培では、梅雨明け以降、ハウス内気温の昇温抑制のために遮光率 50%程度の資材が屋根フィルム上に展張されている事例が多くあります。しかし、遮光率が高すぎるために、着果率が低下している可能性が指摘されています。そこで、山形県庄内総合支庁農業技術普及課産地研究室では、梅雨明け以降に屋根フィルム上に展張する資材の遮光率の違いが着果率の推移や、収量に及ぼす影響について明らかにしましたので、その概要を紹介します。

### ☆ 技術の概要

- 晴天日の代表的な気象条件（8月9日）の比較では、遮光率 30%資材を屋根の P0 フィルム上に展張したハウス内の晴天日の日射量は、遮光率 50%資材を展張した場合に比べて、約 17%増加しました。一方、ハウス内気温は、日平均で 0.2℃の上昇でありほぼ同等でした。
- いずれの遮光資材を展張しても着果率は、初期の着果負担による低下はみられるものの、遮光資材展張後は、遮光率 50%資材に比べて遮光率 30%資材の方が高く推移します。
- 遮光率 30%資材を屋根の P0 フィルム上に展張した場合の商品果数は、遮光率 50%資材を展張した場合に比べて有意に増加します。また、遮光率 30%資材では日焼け果が発生するものの、その割合は低くなりました。高温が原因と考えられる軟果の発生は、両区に大きな差はなく、また、遮光率 30%資材ではひび割れ果の発生が有意に少なくなります（表 1、表 2）。

区名	総収量		商品果		障害果		平均果重 (g)
	個数	重量	個数	重量	個数	重量	
	(千個/a)	(kg/a)	(千個/a)	(kg/a)	(千個/a)	(kg/a)	
30%遮光区	5.71	808	4.17	599	1.54	209	156
50%遮光区	5.17	767	3.23	489	1.94	278	155
t検定 <sup>z</sup>	n. s.	n. s.	*	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.

<sup>z</sup> \*は5%水準で有意差あり、n. s. は5%水準で有意差なし (n=3)

区名	尻腐れ果		ひび割れ果		日焼け果 <sup>z</sup>		軟果 <sup>y</sup>		その他 <sup>x</sup>	
	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量
	(千個/a)	(kg/a)	(千個/a)	(kg/a)	(千個/a)	(kg/a)	(千個/a)	(kg/a)	(千個/a)	(kg/a)
30%遮光区	0.19	21.6	0.82	129	0.02	3.3	0.23	28.3	0.28	26.4
50%遮光区	0.08	7.8	1.44	221	0.00	0.0	0.23	29.4	0.20	19.2
t検定 <sup>w</sup>	n. s.	n. s.	*	*	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.

<sup>z</sup> 直射日光が原因と考えられる果皮表面の障害    <sup>y</sup> 果肉部分も含めた高温による障害

<sup>x</sup> 80g以下の格外品、奇形果、病果など

<sup>w</sup> \*は5%水準で有意差あり、n. s. は5%水準で有意差なし (n=3)

### ☆ 活用面での留意点

- 供試した遮光資材は、色がシルバーでネット状の資材（商品名「ふあふあ」、1 m<sup>2</sup>当たり単価は約 170 円）です。
- 詳しいことは、山形県庄内総合支庁農業技術普及課（TEL: 0234-91-1250）までお問い合わせください。

（日本政策金融公庫農林水産事業本部    テクニカルアドバイザー    吉岡 宏）